

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.968
2022.8.28

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/とりうみ敏行
松村 としお
久保 みき
金子 あきよ神田よしゆき
とば めぐみ
たけこし 連

安倍元首相への市へ申し入れ 弔意表明の強制するな

安倍晋三元首相の「国葬」問題について、8月22日、党市議団が清水勇人市長に申し入れを行いました。

申し入れは、政府が安倍元首相の「国葬」を閣議決定したことを受けた

もので、国民的合意も法的根拠もないまま全額国費による「国葬」をおこなうことは、国民的評価が分かれる安倍氏の政治を礼賛・美化し、個人への賛美を国民に強要することに繋がることから、弔意表明の強制をしないよう求めました。

現に、多くの世論調査でも国民の多数が「国葬」の実施に反対を表明しています。反対の声が多いにも関わらず、「国葬」が強行され、学校を含む公共機関において弔旗掲揚などが強制されるとすれば、それは結果的に子ども



や教職員に弔意を押しつけることになりません。

そもそも弔意は内心の自由に関わる問題であるため、弔意を示したい市民が、個人的に弔意を表明することをさまたげるものではありません。しかし、弔意を強制すると、憲法19条の思想信条の自由の保障に抵触し、個人の内心を統制することにほかならず、許されません。

今後、政府から地方自治体に対し、弔意表明を求める通知が来る可能性があります。し

9月議会が始まります

9月7日(水)から10月21日(金)まで、9月議会が開かれます。9月議会は、新型コロナウイルス感染症第7波のなかで開かれるため、インターネット中継による傍聴の推奨、発言ごとにマイクと天板の消毒など、さまざまな感染防止策をとりながらの開催となります。ご了承ください。

代表的一般質問には、党市議団から松村としお市議、たけこし連市議が登壇します。松村市議は、子どもの権利を大切にするための学校教育のあり方について、子育て支援策の充実、さらに本市の農業支援についてとりあげる予定です。たけこし市議は、新型コロナ対策のほか、旧統一教会の問題、物価高騰対策、人権擁護対策の充実などについてとりあげる



松村としお市議



たけこし連市議

予定です。

また、9月議会は決算特別委員会が開かれる議会で、2021年度の予算執行が適切であったかを審査し、「認定」か「不認定」かを審議します。党市議団の決算委員は神田よしゆき、金子あきよの両市議です。

請願の締め切りは8月30日(火)です。請願の提出には紹介議員が必要です。お早めにご相談ください。

かし、公務員に弔意を強制することは、「公務員は全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」とする憲法15条や、特定政党への支持や政治的活動を禁じた教育基本法14条にも抵触します。そのため、党市議団として、

- 1 学校現場や行政機関等に弔旗の強制をしないこと。
- 2 市民及び市職員に弔意の表明を強制しな

いこと。

- 3 児童生徒、教職員に対し弔意の表明を強制しないこと。

の3点について要望しました。

対応した総務課は、「今のところ、国から具体的指示は来っていない。指示があればその時点で判断したい」と答えました。党市議団として、今後のさいたま市の対応を厳しくチェックしていきます。



交流会に出席するとば市議（左から 2 人目）

埼玉県教育委員会は、老朽化や少子化による希望者の減少を理由に、2029 年をめどに 134 ある県立高校を 121 ～ 124 に削減する計画を進めており、すでに第 1 期として児玉高校を児玉白楊高校に統合、飯能南高校

浦和工業高校と大宮工業高校が統合？

を飯能高校に統合し、来春新校が開校します。

7 月 14 日には「魅力ある県立高校づくり第 2 期実施方策（案）」として 12 校を 6 校に再編整備すると発表し、本市では浦和工業高校と大宮工業高校の統合が発表されました。しかし、「魅力ある県立高校づくり」とは、県立高校を減らさないと実現できないのでしょうか。

8 月 12 日、日本共産党埼玉県議団が、広

く県民を対象にして「県立高校統廃合問題交流会」を開催し、党市議団からとばめぐみ市議が出席しました。

とば市議は「県は『学びの改革』と称して『産業構造の変化や激しい競争時代を生き抜くための学力の育成』『習熟度別指導や少人数指

導、個別指導』をうたっている。少人数指導、個別指導というのであれば、1 学級 40 人の学級編成を見直し、教職員を増やし、いきとどいた教育を実現してこそ、生徒が主役の魅力ある県立高校をつくることにつながる。市議会でもとりあげていきたい」と話しました。

人権政策のとりくみを学ぶ 川崎市を視察

8 月 10 日、とばめぐみとたけこし連の両市議が、川崎市の実施している「人権オンブズパーソン」制度について視察を行いました。

人権オンブズパーソンは、市民が人権の侵害に関する相談及び救済申立てを簡易かつ安心して行うことができるために設置された第三者機関で、おもに子どもの人権侵害や男女平等に関わる相談を選任スタッフと弁護士で解決しています。

川崎市担当者によると、2021 年度は 154 件の相談があり、子どもの相談事例では、いじめ・学校や施設等の対応への問題、虐待などの相談、また男女平等相談事例では DV



川崎市職員から聞き取りを行う（右から）とば、たけこしの両市議

などの相談が中心となっています。川崎市はオンブズパーソン制度実施後に「子どもの権利条例」と「男女平等条例が制定」され、両条例の中で求められている「個別救済制度」を実施するための制度として運用されています。

たけこし市議は「先駆的なとりくみを勉強できた。さいたま市の人権関連予算は約 80 万円で川崎は約 3400 万円。この比較だけでも本市の人権政策の遅れがわかる。積極的にとりくみたい」と話しました。

障がい者の生活実態に寄り添ってこそ

8 月 22 日、障害者（児）の生活と権利を守るさいたま市民の会が、69 項目にわたる要望書にもとづき、市との懇談会を行いました。金子あきよ、久保みきの両市議が参加しました。

制度、教育、くらしの場づくりなどについてのそれぞれの担当者からの回答に対して、「ひまわり特別支援学校に知的の高等部を併置するだけでは、特別支援学校の過密、教室不足の根本的な解決にはならない。小学部から高等部まである市立特別支援学校をつくってほしい」「市内にグループホームは増えているが、利用料が高い、内容がよくない、重

度の人は断られるなど、利用が進まない実態がある」など、参加者から改善を求める意見が強く出されました。

また、医療費助成制度の所得制限や移動支援制度の制限の撤廃を求める声に対して、市の担当者から「持続可能な制度のためには必要」との説明があったことに、参加者から「障がい者の生活実態をもっと認識するべきだ」と憤る発言もありました。

参加した金子、久保両市議は「障がい者施策は課題が山積み。みなさんの具体的な声や要望をもとに議会でもとりくんでいきたい」と話しました。

あなたの身近な議員です



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保 みき



市議(南区)

金子あきよ



市議(北区)

神田よしゆき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(中央区)

たけこし連